

## 校長先生からの「のびゆくすがた」

校長先生から、それぞれの学年の子どもたちに「のびゆくすがた」を渡します。

【1年生】3学期は、「自分たんけん」の勉強をしました。家族から自分が生まれたときのことを聞いたり、友だちが生まれてきたときのことを聞かせてもらったりして、自分と同じように、友だちも、家族に大切にされていることが分かったと思います。これからも、自分も、友だちも、大切にできる子でいてほしいです。4月からは、新しい1年生が入ってきます。

1つ上のお兄さん、お姉さんとしていろいろ教えてあげましょう。

【2年生】思っていることを出すことができる学級の雰囲気は、とても素敵なことです。この前も、「〇〇さんが、やりたいことやった方がいいんじゃないの。」「それだったら、〇〇さんに何がしたいのか聞いてみようよ。」といった友だちのことを思いやることばが自然と出てくる、そんな「なかまとしてのあたたかさ」を感じました。ただ、友だちにあわせてしまい、自分で行動の切り替えがなかなかできないところがあるのは残念です。4月からは中学年になります。「今は何をしなくてはいけないのか」を自分で考え、判断し、行動できるようにしましょう。

【3年生】会社活動など、自分たちで計画して活動ができるようになってきました。うまくいかなかった時も、自分たちで話し合っ解決しようとするようになってきた姿に成長を感じています。困っている友だちがいると、すぐに助けてあげようと声をかけてあげているところも素敵です。ただ、まだまだ自分の考えを自分のことばで伝えることを苦手としているところがあります。4年生になると、今以上に、自分はどのように考えているのか、思っているのかということ、自分のことばで伝えることが求められます。そのためにも、「書く」ということに慣れていくといいと思います。「日記を書く」「考えを書く」「感想を書く」「アイデアを書く」「ふり返りを書く」、そして、「『まなび〜』を書く」ということを続けていくといいと思います。

【4年生】一人一人が、自分の考えや思いを「ことば」で伝えることができるようになってきたことで、「誰もが居心地のいい学級」になってきているように感じます。3学期には、自分の成長を見つめ、それを作文にして、友だちに伝えることもできました。そんなふうには、「ことば」に表すことの大切さを学んだからこそ、もっともっと「ことば」を増やしていく学習や、もっともっと「ことば」で表す学習が必要であることを感じている子どもも多くいます。5年生では、これまで以上に、「読む」「書く」機会を増やし、「ことば」を増やしていきます。

【5年生】5年生のみなさんが、六送会を企画・運営をしたり、卒業式の準備をしたりしている姿を見ていると、一人一人が自分がやるべきことを考え、みんなで協力して取り組んでいる姿が見られ、とても頼もしく思いました。4月からも「学校のリーダー」という自覚

をもって、新6年生が一つになって、みんなを引っ張っていってくれることを期待しています。21人と人数が少ない分、一人一人が活躍する場が増えます。うまくいかないことも経験しながら、下の学年の子どもたちから、「あんな6年生になりたい」と思ってもらえるリーダーになってくれることを期待しています。ただ、学習面については、一人一人が、もっと「わかるようになりたい」と思わなくてはいけないし、わからないことも、ほっておくのではなく、「みんなでわかるまでやり切る」ことが必要です。互いを高め合う、そんななかまになっていきましょう。期待しています。



2年生 K.M画伯

みんな、よくがんばったので、全員、4月からは1つ上の学年に進級することを認めます。進級おめでとう。

## 4月・5月の主な行事予定

が	が	おも	ぎょうじよてい				
4月	5日(金)	5・6年生	入学式準備				
	8日(月)		着任式・始業式・入学式				
	10日(水)		給食開始				
	18日(木)	6年生	全国学力・学習状況調査(国語・算数)				
	26日(金)	午後	授業参観・PTA総会・学級懇談				
	30日(火)	5月1日(水)	2日(木)	7日(火)	9日(木)	午後	家庭訪問
5月上・中旬	4・5年生		みえスタディチェック(国語・算数)	5年生は理科)			
6月1日(土)			運動会				

## 6年生への「はなむけのことば」から

卒業式では、6年生に次のようなことばをおくりました。

一つ目は、竹の「節」についてです。竹にはいくつもの「節」がありますが、「節」の多い竹ほど、強く、でもしなやかな竹になるそうです。そんな「節」ができるときは、竹の成長は遅くなり、時間がかかるそうです。でも、その「節」が出来上がると、その後は、またすくすくと伸びていくそうです。人の成長も同じです。「節」ができるときは、時として、試練を伴うことがあります。その試練を乗り越えるには、時間がかかり、その時は、悩み、苦しむものです。でも、そうした「節」「試練」を乗り越えてこそ、人としての「強さ」を身につけることとなります。(中略)

二つ目は、「竹」と「竹」のつながりについてです。「竹」は、見た目は、一本一本が独立して立っているように見えます。しかし、実は、土の下では、「地下茎」というもので繋がっていることを知っていますか。見えないところで強い「つながり」があるから、あんなに高くても、一本一本が、しっかり立っていることができるのです。一人一人がしっかり立つためには、その土台となる、なかまとの強いつながり、「絆」が必要であるということです。

(後略)